自然公園等工事特記仕様書（自然公園編）（令和８年８月版）

Ⅰ　工事概要

１．工 事 名：令和８年度新宿御苑プラタナス並木土壌改良等工事
２．工事場所：東京都新宿区内藤町１１新宿御苑地内
３．工　　期：契約の日から令和９年３月３１日まで
４．工事内容：明治時代、日本に初めて植えられたプラタナス並木が老木化し空洞などがみられるようになり、安全の確保と景観を維持していくため、植物の生育を支える根が健全に育つよう土壌環境を整備する。

植栽基盤改良工　一式
植栽工　　一式

Ⅱ　適用

１．　本特記仕様書は、「自然公園等工事共通仕様書（自然公園編）」（以下「共通仕様書」という。）でいう特記仕様書で、本工事に適用する。
２．　本工事の施工に係る一般事項は、共通仕様書による。
３．　追加事項が必要な場合には、空欄部分に記載する。
４．　以下の項目は、該当する□欄に「レ」の付いたものを適用する。

Ⅲ　適用基準等

☑ (1)　土木工事共通仕様書（国土交通省）
☑ (2)　土木工事施工管理基準（国土交通省）
☑ (3)　写真管理基準（案）（国土交通省）
☐ (4)　工事完成図書の電子納品等要領（国土交通省）
☑ (5) 新宿御苑作業要領（環境省 新宿御苑管理事務所）

Ⅳ　特記事項

１．地域事項の概要

☐ (1)　自然公園法による地域地種区分　－公園－地域（地区）
☐ (2)　自然公園法による車馬の乗り入れ規制区域
☐ (3)　鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律による鳥獣保護区、特別保護区域
☐ (4)　文化財保護法による史跡名勝天然記念物
☐ (5)　森林法による保安林
☐ (6)　海岸法による海岸保全区域
☐ (7)　砂防法による砂防指定地
☐ (8)　河川法による河川区域及び河川保全区域
☑ (9)　文化財保護法による埋蔵文化財包蔵地

２．一般共通事項

☑ (1) 工事完成図のサイズは（□A1、☑A3、□　　）とする。
□ (2) 工事完成図はCADで作成し、CADデータの提出は（□必要、□不要）とする。
☑ (3) 工事写真は、（☑A4 版、□　版）の工事写真帳に整理して１部提出することとし、写真はカラーでサービスサイズ程度とする。なお、監督職員と協議のうえ電子納品のみとする場合は、この限りではない。
☑ (4) 「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）に基づく、環境物品等の調達の推進に関する基本方針（以下「基本方針」という。）（環境省ホームページに掲載（毎年２月改正）において位置づけられた、「特定調達品目」の調達の実績（設備及び公共工事）について、当該年度の調達実績集計表（物品・役務及び公共工事）を環境省ホームページからダウンロードのうえ、Excel ファイルで作成し、提出する。
□ (5) 「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、国立公園等施設への木材利用量について、監督職員が指定した様式で作成し、提出する。

３．施工条件

(1) 工事全般関係

□ ①各種積算の取組：　　☑ ②積算補正：市街地（DID 補正）
□ ③調査対象工事：　　□ ④余裕工期の設定：
□ ⑤情報共有システム対象工事
詳細は「自然公園等整備工事及び業務の情報共有システム運用要領（案）」による。
□ ⑥遠隔臨場対象工事
詳細は「自然公園等整備工事における遠隔臨場の試行要領（案）」による。

(2) 工程関係

☑ ①影響を受ける他の工事
a. 工事名・発注者：園内の各施設整備工事及び各業務・新宿御苑管理事務所
b. 制約内容：工事箇所及び通行規制についての調整

☑ ②自然的・社会的条件による制約
a. 要因：新宿御苑管理運営
b. 制約内容：工事の実施時間は月曜日から金曜日の午前８ 時30 分から午後５ 時までとすること。その他の時間の工事実施については、監督職員に申し出て承認を得ること。
来園者の利便性の確保、動線確保のため、工事等に際して交通誘導員、誘導標式等を配置すること。

☑ ③関連機関との協議による制約
埋蔵文化財包蔵地につき、新宿区文化財担当と協議等が必要である。

☑ ④占用物件（地下物件、架空線など）・埋蔵文化財等の事前調査・移設
本工事箇所には、既設の通信線及び水道管等の埋設物が存在する可能性があるが、その正確な位置および経路については不明である。

受注者は、施工に先立ち、現地確認および必要に応じて試掘等を実施し、埋設物の位置を十分に確認したうえで施工を行わなければならない。また、施工中に埋設物を発見した場合は、直ちに監督職員に報告するとともに、損傷の防止措置を講じ、今後の施工について指示を受けるものとする。

□ ⑤特殊工法に伴う設計工程上の作業不能日数

(3) 用地関係

□ ①用地の取得未了

□ ②保安林解除や用地規制等

□ ③官民境界の未確定部分

□ ④用地の借地及び官有地等の使用

(4) 環境対策関係

☑ ①自然環境及び景観等保全のための制約

a. 要因：猛禽類等（オオタカを想定）の生息する可能性のある区域

b. 制約内容：繁殖期の施工回避、騒音・振動の低減対策等を行うこと。

□ ②公害防止のための制限

□ ③水替、流入防止施設

□ ④濁水、湧水等の特別処理

☑ ⑤事業損失懸念

工事に伴う騒音及び粉塵等が、近隣住民及び利用者等へ影響がある場合は、これらへの対策が必要となる。

(5) 安全対策関係

□ ①交通安全施設等の指定

☑ ②交通誘導警備員の配置

来園者等の交通の安全確保

□ ③対策をとる必要がある他施設との近接工事

□ ④防護施設等

☑ ⑤保安設備及び保安要員の配置

a.対象工種：掘削、積込み、剪定、伐採等

b.対象要因：重機等の使用を伴う作業、粉塵、切り粉が飛散する作業等

e.その他：来園者及び作業員等の通行の安全の確保及び労働災害の防止のため、保安要員を配置するとともに工事現場に仮囲い、案内看板を設置する。また、反射材等を用い視界不良時に備えること。

□ ⑥発破作業等の制限

□ ⑦有害ガス及び酸素欠乏等の対策

☑ ⑧高所作業の対策

a. 対策内容：伐採作業等に応じ、高所作業車を使用する際は、フルハーネス型墜落制止用器具の着用、および第三者災害を防ぐための立ち入り禁止区域設定、作業計画書の作成等十分な安全対策を講じること。

□ ⑨砂防工事の安全確保対策

(6) 工事用道路関係

新宿御苑内の園路の舗装構成は舗装 70 ㎜、路盤 150 ㎜である。このため、受注者は工事用車両の通行に際し、過大な荷重が作用しないよう車両規格の選定および走行方法に十分配慮するものとする。なお、工事に起因して舗装等を損傷した場合は、受注者の負担により原形復旧を行うものとする。

(7)　仮設備関係

□　①他の工事に引き継ぐ場合

□　②引き継いで使用する場合

□　③構造及び施工方法の指定

□　④設計条件の指定

□　⑤除雪

(8)　建設副産物関係

☑　①建設副産物情報交換システムの活用

監督職員への報告は、当該システムで作成した再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）により行うものとする。

□　②建設発生土情報交換システム登録対象

受注者は、発注者が当該システムに登録した情報について、発注後情報の更新を行うものとする。

□　③再生資材の活用の明示

a. 資材名：　　b. 規格：

c. 使用箇所：　　d. その他：

□　④建設リサイクル法対象工事

☑　⑤建設発生土の受入地への搬出

自由地処分

□　⑥建設発生土の他工事への搬出

□　⑦他工事からの建設発生土利用

□　⑧土壌汚染対策法の届出

(9)　工事支障物件関係

□　①占用物件等の工事支障物件

(10)　薬液注入関係

□　①薬液注入

(11)　現場環境改善費

□　①率計上内容

a. 仮設備関係

□昇降設備の充実、□環境対策の充実、□ＩＣＴ設備の充実、

□作業負荷の低減

b. 営繕関係

□現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む。）

□労働者宿舎の充実、□現場休憩所の充実（交通誘導警備員待機室を含む）

□衛生設備・厚生施設の充実等

c. 安全関係

□工事標識・照明等安全施設の充実、□盗難防止対策
□健康関連施設の充実、□野生生物・害虫対策等

d. 地域連携

□広報活動等（完成予想図、パンフレット、工法説明図、PR 看板等）
□見学会・イベント等の開催（見学施設等設置・管理運営等含む）
□社会貢献・地域対策費等（地域行事等の経費を含む）
□現場景観向上（美装化・デザイン看板等）

□ ②積上計上内容：

□熱中症対策・防寒対策

(12) その他

□ ①工事用資機材の保管及び仮置き（製作工事及び他工事との工程調整等）
□ ②工事現場発生品
□ ③支給品・貸与品
□ ④新技術・新工法・特許工法の指定
□ ⑤指定部分の引き渡し
□ ⑥部分使用
□ ⑦給水
☑ ⑧現場事務所・現場休憩所等（テントを含む）の設置

☑可 設置条件：管理区域及び菊栽培所内（監督職員の指示による）
□不可 想定休憩場所等：

□ ⑨監督職員事務所の設置
☑ ⑩工事用水及び工事用電力の構内既存設備

a. 工事用水：☑利用できる（□有償、☑無償）、□利用できない
b. 工事用電力：☑利用できる（☑有償、□無償）、□利用できない

☑ ⑪資材置場や作業場等

a. 場所：新宿御苑バックヤード（管理事務所裏、正門脇、菊ヤード）

４．土工

☑ (1) 土砂のダンプトラック運搬に関しては、必ずシート掛けを行う。
☑ (2) 土砂を仮置きする場合は、降雨等により周辺の植生帯に流失し、植物に影響を及ぼすことのないように、シート掛け等の適切な対策を講じる。
☑ (3) 植生保護及び土壌の固結防止を図るため、以下の場所おいては重機等の出入りは避ける。

（☑アスファルト舗装部以外の部分）

☑ (4) 土工における運搬および敷均し等については、含水比の高い状態で作業を行ってはならない。
□ (5) 搬入する土砂は、地域生態系保全の観点から、以下の条件のものとする。

（条件： ）

５．無筋・鉄筋コンクリート

該当なし

６．材料

□ (1) 以下の工事材料は、見本又は品質を証明する資料について、工事材料を使用するまでに監督職員に提出し、確認を受ける。
（□ JIS マーク表示品以外全て、□　　）

☑ (2) 植栽材料については、納入前後どちらかで材料検査をする。また、監督職員の指示があった場合は、納入樹木の根巻きを一部取り外す等により根の状況を確認し、承諾を得ること。

☑ (3) 樹木の形状寸法は最小限度を示し、工事完成時点のものを言うが、その許容上限は監督職員と協議のうえ決定する。

□ (4) 木材の保存処理方法は、JIS A 9002「木質材料の加圧式保存処理方法」に準拠すること。また、使用する薬剤は、JIS K 1570「木材保存剤」とし、以下のとおりとする。
①薬剤指定：□有（　　）、□無（条件：　　）
②性能区分：□JAS：　　、□AQ：

□ (5) 木材のインサイジング加工を行う場合は、製材の日本農林規格による。また、インサイジング機は、一般社団法人全国木材検査・研究協会において認定された機種を使用する。

□ (6) 木材の加圧処理材を現場において切断等の加工を行う場合は、加工した部分に表面処理用木材保存剤（(公)日本木材保存協会(JWPA)認定薬剤)で野外での使用が可能な薬品を塗布する。

□ (7) 木材の仕上げは、図面に記載のない限り、角材はプレーナー仕上げ及び丸太は円柱仕上げを標準とする。

□ (8) 木材の端部及び角部は図面に記載のない限り面取りを施すこととし、面取り幅等については監督職員と協議する。

□ (9) 木材の背割り加工は、材の厚みの（□1/2、□　　）とする。

７．工事共通

(1) 構造物撤去工

□ ① 舗装切断作業により生じる汚濁水は、吸引により回収のうえ、公園区域外に搬出し適正に処理する。

(2) 仮設工

□ ① 交通誘導警備員を配置する場合、各公安委員会が必要と認める路線・区間及び設計図書に記載のあった場合は、規制箇所毎に交通誘導警備検定合格者（１級又は２級）１名以上配置するものとする。また、受注者は、交通誘導警備検定合格証の写しを監督職員に提出するものとする。

８．基盤整備

□ (1) 石積工の練積において、目地モルタルの施工は深目地とする。

9．植栽

□ (1) 植栽後に、防寒・対乾燥養生等が必要となった場合は、監督職員と協議する。

☑ (2) 支柱丸太の防腐処理は以下のとおりとする。

①防腐処理：□有・☑無

②防腐処理方法：

□ (3) 張芝部の客土（床土・目土）は、以下の条件のものとする。

①客土材：

10．施設整備

□ (1) 石材・平板・レンガ・タイル等を材料とする以下の舗装については、設計図に基づいて割り付け図を作成し（伸縮目地を含む）、監督職員の承諾を得る。

①舗装種類：

□ (2) 以下の舗装については、試験施工を行い監督職員の承諾を得なければならない。

①舗装種類：

□ (3) コンクリート構造物の端部及び角部は、図面に記載のない限り面取りを施すこととし、面取り幅等については監督職員と協議する。

□ (4) 施設の設置にあたり、詳細位置等について監督職員の立ち会いにより決定するものは、以下のとおりとする。

①施設種類：

11．働き方改革関係

□ (1) 本工事は、自然公園等工事における「週休２日制工事（現場閉所型）」の対象工事である。

☑ 完全週休２日（土日）Ｉ型

受注者は、工事契約後、完全週休２日（土日）の取組を希望するか判断の上、発注者に協議するものとし、希望しない場合は月単位の週休 2 日に取組むものとする。

(2) 週休２日の考え方

① 完全週休２日（土日）とは、対象期間の全ての週において、現場閉所されている状態をいう。受注者の責によらず土日に施工を行わざるを得ない場合は、事前に協議した上で、土日に代わる現場閉所日を指定するものとする。

② 月単位の週休２日とは、対象期間内の全ての月で現場閉所日数の割合（以下「現場閉所率」という。）が、28.5%（８日／28 日）以上の水準の状態をいう。ただし、暦上の土日の閉所では、28. 5%に満たない月は、その月の土日の合計日数以上に閉所を行っている場合に、４週８休以上を達成しているものとみなす。

③　通期の週休２日とは、対象期間内の現場閉所率が、28.5％（８日／28 日）以上の水準の状態をいう。

④　なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所についても、現場閉所日数に含めるものとする。

⑤　対象期間は、工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始６日間、夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間等は含めない。

⑥　現場閉所とは、巡回パトロール及び保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、１日を通して現場及び現場事務所が閉所された状態をいう。

⑦　受注者の責によらない現場開所

工事契約後、週休２日対象期間としていた期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じる場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休２日の対象外とする作業と期間を決定するとともに、変更契約時の設計図書に対象外とする作業と期間を明示する。

ただし、現場閉所による週休２日の対象外とする期間は災害対応等のやむを得ない期間に限定すること。

⑧　やむを得ない現場閉所

やむを得ず現場閉所による週休２日の対象外とする期間を設定する場合は、必要最小限の期間とするものとする。また、現場閉所による週休２日対象外期間においては、技術者及び技能労働者が交替しながら個別に週休２日に取り組めるよう、休日確保に努めるものとする。

(3)　現場閉所実績報告書

受注者は、毎月末までに現場閉所実績報告書又は現場閉所率を確認できる資料等（現場閉所実績が記載された工程表や休日等の作業連絡記録、安全教育・訓練等の記録資料等）（以下「現場閉所実績報告書等」という。）を作成し、監督職員が指定する日までに現場閉所実績報告書等を提出するものとする。

(4)　総合工事工程表の作成

受注者は、発注時の設計図書や発注者から明示される事項を踏まえ、総合工程表を作成する。総合工事工程表を作成するに当たっては、当該工事の規模及び難易度、地域の実情、自然条件、工事内容、施工条件等のほか、建設工事に従事する者の週休２日の確保等、下記の条件を適切に考慮する。

①　建設工事に従事する者の休日（週休２日に加え、祝日、年末年始及び夏季休暇）の確保

②　建設業者が施工に先立って行う労務・資機材の調達、調査・測量、現場事務所の設置等の「施工準備期間」

③　施工終了後の自主検査、後片付け、清掃等の「後片付け期間」

④　降雨日、降雪・出水期等の作業不能日数

(5)　工事工程の共有

①　工事において、受発注者間で工事工程のクリティカルパスを共有し、工程に

影響する事項がある場合には、その事項の処理対応者を明確にするものとする。

② 円滑な協議を行うため、施工当初において工事工程（特にクリティカルパス）と関連する案件の処理期限（誰がいつまでに処理し、どの作業と関連するのか）について、受発注者で共有するものとする。

③ 工事工程の共有に当たっては、必要に応じて下請け業者（専門工事業者等の技術者等）を含めるなど、共有する工程が現場実態にあったものとなるよう配慮するものとする。

④ 工程に変更が生じた場合には、その要因と変更後の工事工程について受発注者間で共有すること。また、工程の変更理由が受注者の責によらない場合は、適切に工期の変更を行うものとする。

12. ウィークリースタンス対象工事

本工事は、ウィークリースタンス対象であるため、「ウィークリースタンス実施要領」に基づき、受発注者の協力のもと取り組むものとする。

https://www.env.go.jp/content/000409985.pdf

13. 植栽基盤改良工

(1)担当技術者の配置

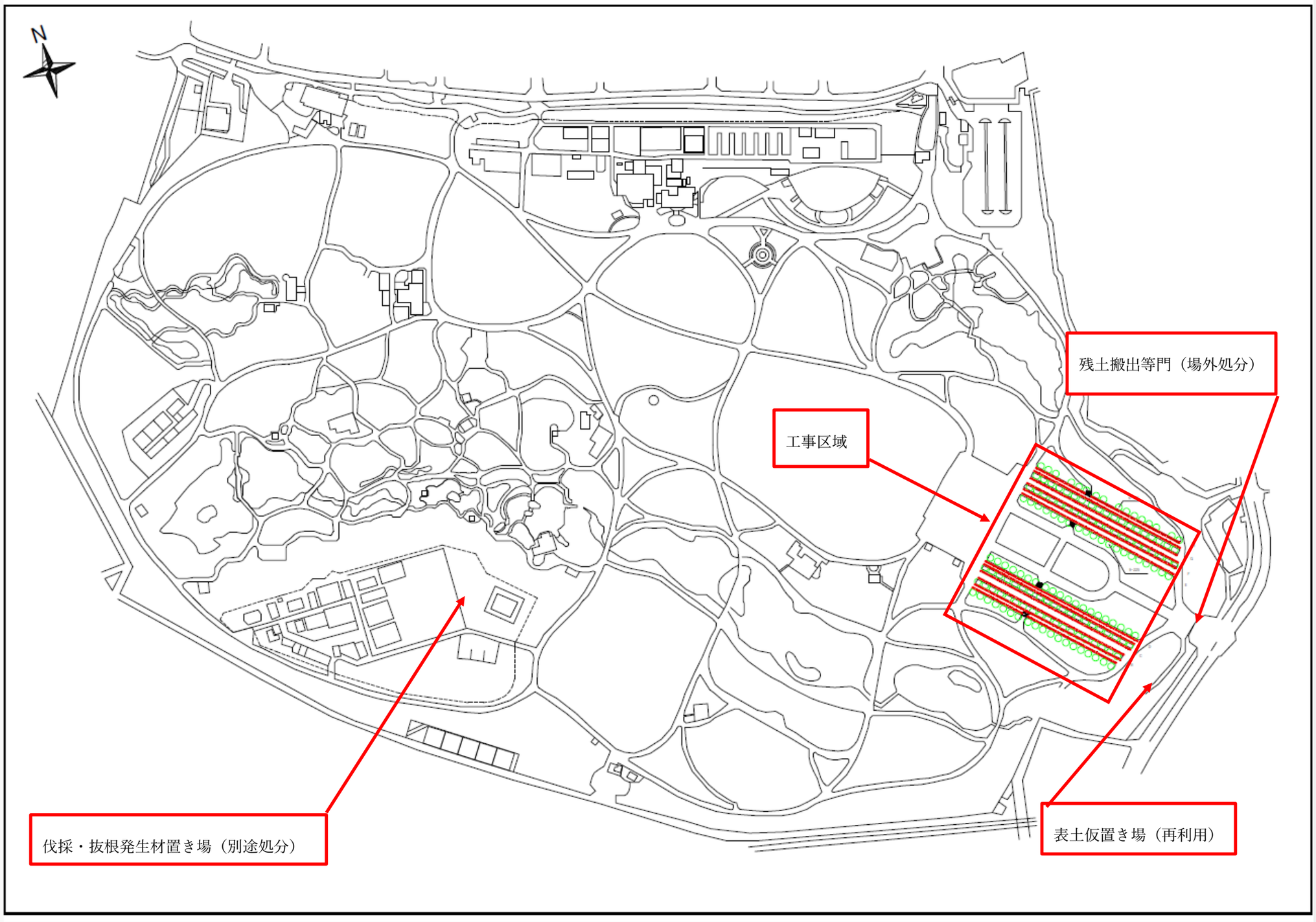
①施工にあたっては、専門的な知見による施工管理および施工指導を行うため、受注者は、一般財団法人日本緑化センターが認定する「樹木医」及び一般社団法人日本造園建設業協会が認定する「植栽基盤診断士」またはこれらと同等以上の専門的知識及び技術を有すると認められる者を配置しなければならない。

② 配置する樹木医及び植栽基盤診断士は、本工事における建設業法上の主任技術者（または監理技術者）が兼ねることを妨げない。

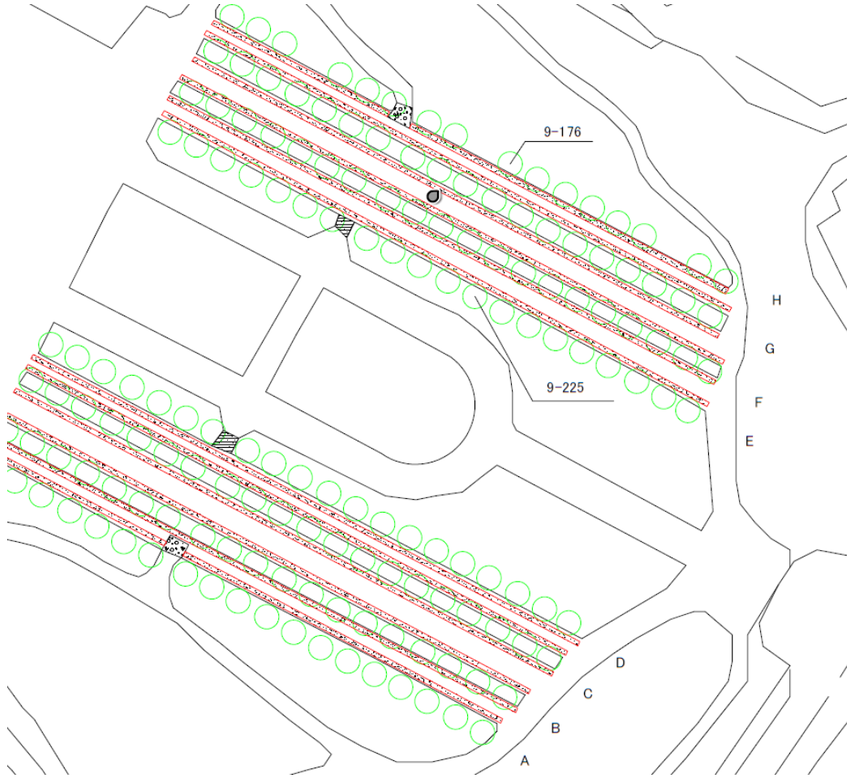
14. その他

(1)発生材の集積箇所及び方法

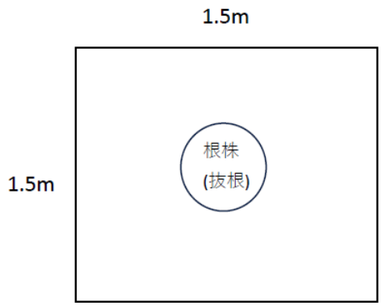
発生材は、監督員の指示に従って、枝葉、幹及び根株にわけて、園内の指定箇所に集積すること。また、発生材は、原則、機体質量が 3 トン未満の小型ユンボでパッカー車及びコンテナ車に積載できるサイズに切断すること。


N
残土搬出等門（場外処分）
工事区域
伐採・抜根発生材置き場（別途処分）
表土仮置き場（再利用）

プラタナス並木危険木伐採・植栽工事詳細図



土壌掘削範囲図

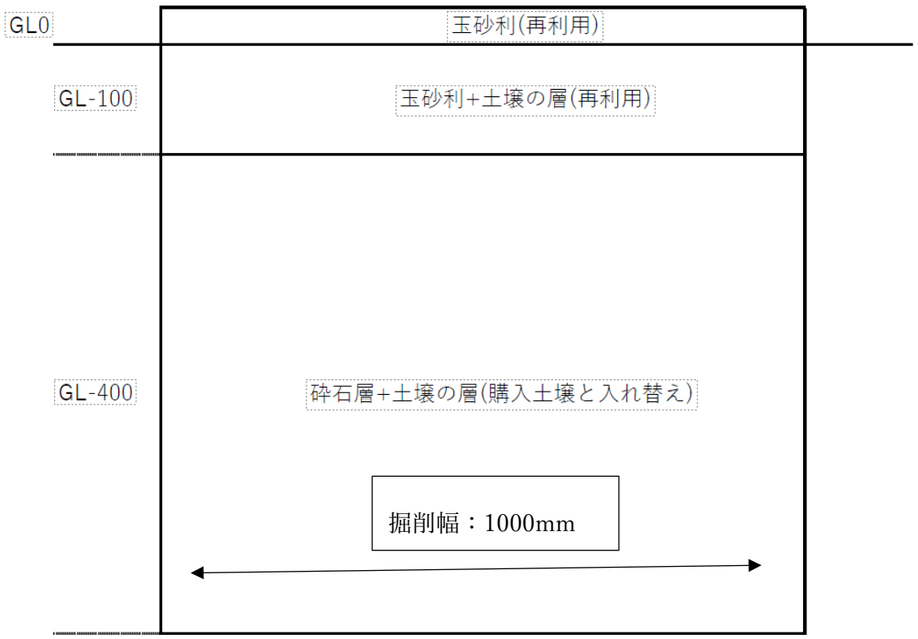




名　　称	規　　格	数量
危険木伐採・抜根工	幹回り１５０ｃｍ～１９９ｃｍ(園内処分)	2本
土壌掘削工	掘削・積込：バックホウクローラ型・山積0.28m3(平積0.2 m3) 1.5×1.5×0.4=0.9　0.9-0.18=0.72　0.72×２＝1.44≒1.4	1.4㎡
土壌積込工	掘削・積込：バックホウクローラ型・山積0.28m3(平積0.2 m3)	1.4㎡
土壌運搬工４ｔ車	工事区域～園内仮置き場：４ｔ車 9.2DID以下　(仮置き処分)	1.4㎡
埋戻し（購入土：黒土）	1.8×1.2/0.9=2.4	2.4㎡
土壌埋め戻し工(人力)		1.8㎡
スズカケ（プラタナス）	高さ4.5m	2本
プラタナス植栽		2本
ニ脚鳥居添木付き		2本

プラタナス並木土壌改良工事詳細図



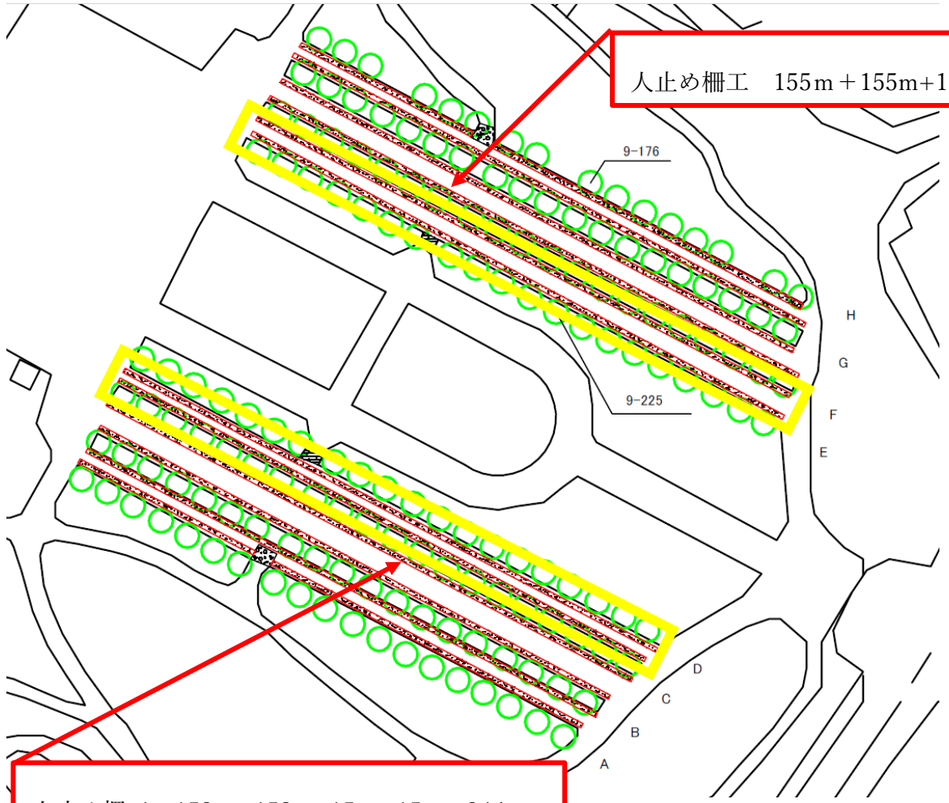


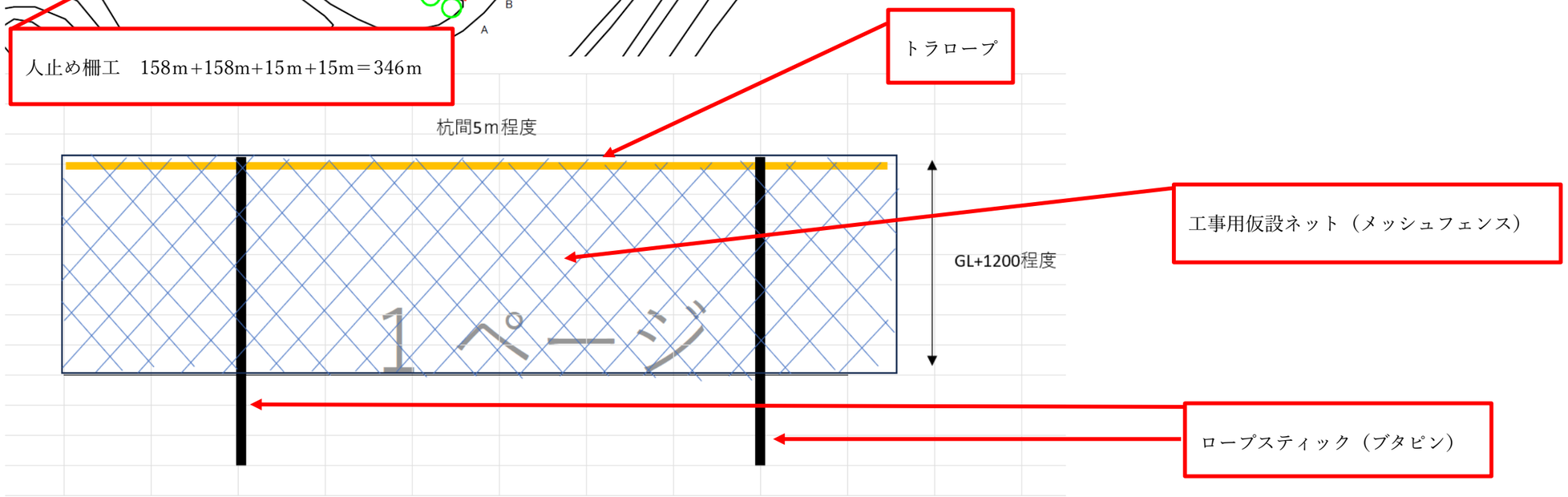
今回工事対象区域

植栽基盤改良工 C 列（L=156m）、植栽基盤改良工 D 列(L=152.3m）

植栽基盤改良工 E 列（L=152.8m）、植栽基盤改良工 F 列（L=98.1m）

プラタナス並木土壌改良工事　人止め柵工（安全対策）





名　　称	規　　格	数量
植栽基盤改良工C列	１５６㎡	
土壌（表土）掘削工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥) 156×0.1~16.6	15.6㎥
土壌（表土）積込工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	15.6㎥
土壌（表土）運搬工４ｔ車	工事区域～資材搬置を参：４ｔ車 0.2Km以下　（積載を処分）	15.6㎥
エアースコップ掘削	砕石混じり土　厚さ４０ｃｍ 156×0.4=62.4	62.4㎥
はね上げ仮置き	人力施工	62.4㎥
残土積込み工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	62.4㎥
残土運搬工	４ｔダンプ：片道鮮far26Km 62.4×1.2/5.6=32台/日	32回
購入土壌（パワーミックス）	62.4×1.2/0.9=83.2	83.2㎥
購入土壌埋戻し	バックホウ吸方超小旋回型山積０．２８㎥+タンパ	62.4㎥
表土積み込み	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥) 1.40+16.6-17.00	17㎥
表土運搬	資材搬置を参～工事区域：4t車 0.2Km以下	17㎥
表土埋戻し	バックホウ後方超小旋回型山積０．２８㎥+タンパ 17×1.2=20.4(住ぐし土量) 20.4×0.9/1.2=15.34≒15.3	15.3㎥
玉砂利復旧	既存玉砂利　撤取り、敷均し	156㎡
樹木医		6人

名　　称	規　　格	数量
植栽基盤改良工D列	１５２．３㎡	
土壌（表土）掘削工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥) 152.3×0.1~16.2?~16.2	15.2㎥
土壌（表土）積込工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	15.2㎥
土壌（表土）運搬工４ｔ車	工事区域～資材搬置を参：４ｔ車 0.2Km以下　（積載を処分）	15.2㎥
エアースコップ掘削	砕石混じり土　厚さ４０ｃｍ 152.3×0.4=60.92≒60.9	60.9㎥
はね上げ仮置き	人力施工	60.9㎥
残土積込み工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	60.9㎥
残土運搬工	４ｔダンプ：片道鮮far26Km 60.9×1.2/5.6(t)=31回/台	31回
購入土壌（パワーミックス）	60.9×1.2/0.9=81.2	81.2㎥
購入土壌埋戻し	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)+タンパ 21.2×0.9/1.2=60.9	60.9㎥
表土積み込み	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	15.2㎥
表土運搬	資材搬置を参～工事区域：4t車 0.2Km以下	15.2㎥
不足用土（購入土：黒土）	15.2×1.2/0.9=20.3 20.3-(15.2×1.2)=2.06≒2.1	2.1㎥
表土埋戻し	バックホウ後方超小旋回型山積０．２８㎥+タンパ 20.3×0.9/1.2=15.23	15.2㎥
玉砂利敷き均し	厚さ３ｃｍ	152.3㎡
樹木医		6人

名　　称	規　　格	数量
植栽基盤改良工E列	１５２．８㎡	
土壌（表土）掘削工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥) 152.8×0.1~16.2?~16.3	15.3㎥
土壌（表土）積込工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	15.3㎥
土壌（表土）運搬工４ｔ車	工事区域～資材搬置を参：4t車 0.2Km以下	15.3㎥
エアースコップ掘削	砕石混じり土　厚さ４０ｃｍ 152.8×0.4=61.1	61.1㎥
はね上げ仮置き	人力施工	61.1㎥
残土積込み工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	61.1㎥
残土運搬工	４ｔダンプ：片道鮮far26Km 61.1×1.2/5.6(t)=31回/台	31回
購入土壌（パワーミックス）	61.1×1.2/0.9=81.46≒81.5	81.5㎥
購入土壌埋戻し	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)+タンパ 21.6×0.9/1.2=61.1	61.1㎥
表土積み込み	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	15.3㎥
表土運搬	資材搬置を参～工事区域：4t車 0.2Km以下	15.3㎥
不足用土（購入土：黒土）	15.3×1.2/0.9=20.4 20.4-(15.3×1.2)=2.04≒2.0	2.0㎥
表土埋戻し	バックホウ後方超小旋回型山積０．２８㎥+タンパ 20.4×0.9/1.2=15.3	15.3㎥
玉砂利復旧	既存玉砂利　撤取り、敷均し	152.8㎡
樹木医		6人
計		

名　　称	規　　格	数量
植栽基盤改良工F列	９８．１㎡	
土壌（表土）掘削工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥) 98.1×0.1~9.81~9.8	9.8㎥
土壌（表土）積込工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	9.8㎥
土壌（表土）運搬工４ｔ車	工事区域～資材搬置を参：4t車 0.2Km以下	9.8㎥
エアースコップ掘削	砕石混じり土　厚さ４０ｃｍ 98.1×0.4＝39.24≒39.2	39.2㎡
はね上げ仮置き	人力施工	39.2㎡
残土積込み工	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	39.2㎡
残土運搬工	４ｔダンプ：片道鮮far26Km 39.2×1.2/5.6(t)=20回/台	20回
購入土壌（パワーミックス）	39.2×1.2/0.9=52.26≒52.3	52.3㎥
購入土壌埋戻し	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)+タンパ 62.5×0.9/1.2=39.22~39.2	39.2㎡
表土積み込み	バックホウクローラ型・山積0.2㎥(平積0.2 ㎥)	9.8㎥
表土運搬	資材搬置を参～工事区域：4t車 0.2Km以下	9.8㎥
不足用土（購入土：黒土）	9.8×1.2/0.9=13.06≒13.1 13.1-(9.8×1.2)=1.34≒1.3	1.3㎥
表土埋戻し	バックホウ吸方超小旋回型山積０．２８㎥+タンパ	9.8㎥
玉砂利敷き均し	厚さ３ｃｍ	98.1㎡
樹木医		4人

発生土処分

名　　称	規　　格	数量
植栽基盤改良工C列		62.4㎥
植栽基盤改良工D列		60.9㎥
植栽基盤改良工E列		61.1㎥
植栽基盤改良工F列		39.2㎥
計		402.5t㎥

人止め柵工　工事終了後に撤去

名　　称	規　　格	数量
人止め柵工　植栽基盤改良工C列、D列	トラロープ、工事用仮設ネット（メッシュフェンス）、ロープスティック（ヴタピン）	340m
人止め柵工　植栽基盤改良工E列、F列	トラロープ、工事用仮設ネット（メッシュフェンス）、ロープスティック（ヴタピン）	346m

交通誘導員B

名　　称	規　　格	数量
プラタナス並木危険木抜採・植栽工事		4人
プラタナス並木土壌改良工事	植栽基盤改良工C列	24人
プラタナス並木土壌改良工事	植栽基盤改良工D列	24人
プラタナス並木土壌改良工事	植栽基盤改良工E列	24人
プラタナス並木土壌改良工事	植栽基盤改良工F列	24人
計		92人